

ある意味、難読

京滋地区で相次ぐ市町村合併 そこで判明した地名の正しい読み

2005年から2006年にかけて全国で展開されている市町村合併。愛知県では南セントレア市の合併そのものが住民投票により消滅するなど、不協和音も生じている。京滋地区では滋賀県高島市や東近江市などの新設に引き続き、山東町、伊吹町、米原町が合併して米原市となったが、そこで奇妙な話題が持ち上がった。それは「米原」の読み方。合併後の「米原市」は「まいばらし」と読むが、市町村合併前の「米原町」は「まいはらちよう」だったのだ。JR米原駅が「まいばらえき」だったせいか、恥ずかしながら筆者は昔から「まいばらちよう」だと思い込んでいたが、米原町の住人でさえ、多くが「まいばらちよう」だと思い込んでいたのだそうだ。

そういや京滋には誤った読みが一般で使われているものが多々ある。「しちじょうどおり（七条通）」を「ななじょうどおり」と呼んだり、「かじゅうじ（勧修寺）」を「かんしゅうじ」と呼んだり…。今後、京都では北桑田郡京北町が今年4月1日に京都市と合併となり、右京区京北町となるが、まさか昔は「けいほくちよう」だったなんてことはないよね。

一番新しい日本の一ページ

いまだききの歴史

温暖化防止

京都議定書がついに2月から発効 民間の環境に対する意識はどうか？

こんを屋上ガーデニングは だめっ!!



2月16日、地球温暖化を防止する京都議定書が発効された。つまり、地球温暖化防止会議など、これから世界中でことあるごとに「京都」という言葉が発せられることになる。となれば、やはり街ぐるみで地球温暖化対策に乗り出さなくては恥ずかしい。そこで、京都駅ビルを管理する京都駅ビル開発が、環境に配慮した都市空間を目指し、JR伊勢丹の屋上に芝を敷き、周辺のプランターに孟宗竹を植えて緑化を推進。さらには季節の花を植えた鉢も置くという。完成後は季節に応じて七夕会や月見会などのイベントも検討しているとか。屋上を緑化して、地球温暖化が防げるかどうかは不明だが、無機質なコンクリートの空間、特に屋上といった殺風景な空間に緑を配するのは実に良い試み。最近のベランダ菜園などのブームとうまく融合して、今後はベランダ緑化が企業レベル、個人レベルでも盛んになれば良いと思う。その結果、地球温暖化が防止できるなら、なお素晴らしい。

電話BOXは電車内の時代へ



公衆電話の行方

街角から消えつつある電話ボックス 携帯があるからといって安心するなかれ

日本中から公衆電話が姿を消しつつある。理由はもちろん携帯電話の普及。街角からは月あたりの利用金額が4000円を下回る公衆電話が次々と撤去されている。京都市内でももはや3つ以上の公衆電話が並ぶ場所が稀になった。福岡のあるホテルでは公衆電話を撤去したブースに空気清浄機を置き、喫煙ブースとして再利用しているとか。それも良いアイデアだ。しかし、懸念されるのは災害時の通信手段。万が一の時は被災地に電話が集中することから、一般電話や携帯電話の通話が制限され、公衆電話の方がかかりやすくなる。NTT西日本は「収益性とは無関係に1キロ四方（市街地では500メートル四方）に最低1台の公衆電話を残している」としているが、撤去がさらに進めば、どこに公衆電話があるかわからなくなる心配もある。今後は公衆電話の設置場所に法則性をもたせたり、防災訓練で近くの公衆電話の位置を説明したりと、万全の防災対策を行って欲しい。

大黒選手大活躍!!



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を日進む。
HP●<http://www1.1ccn.ne.jp/tsukapon/>

イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>